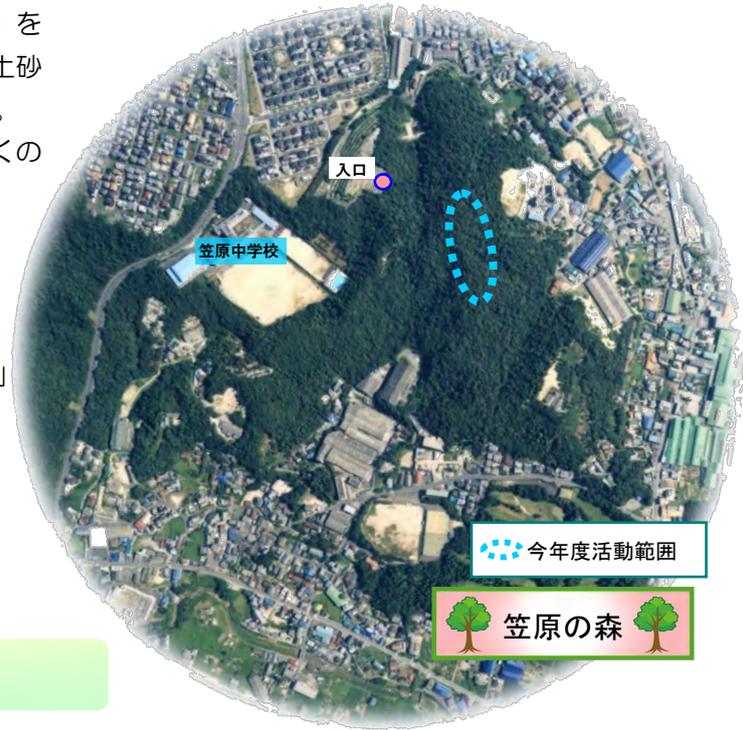


土岐川グリーンベルト通信 第90号

平成30年度「笠原の森」笠原中学校による活動報告

笠原中学校の1年生64名が、ふるさとの森「笠原の森」を舞台に、樹林の働きや樹林整備の意義を学ぶための学習、土砂災害に強い樹林を目指した樹林整備活動に取り組みました。

この活動は、多治見砂防国道事務所、多治見市ほか、多くのボランティアの支援のもと実施されました。



○学習会 10月18日

室内講義「砂防のはなし」「森林のはなし」
野外学習「土砂流出実験」「土石流模型実験」「降雨体験」

○樹林整備活動 11月22日

野外学習「常緑低木や成長の悪い木の伐採（間引き）」

10/18 学習会

室内講義



砂防のはなしでは、樹林地が荒廃していた笠原町の歴史や樹林整備の必要性を学びました。



森林のはなしでは、我々の生活のあらゆる場面に木や森が関わっていることをクイズ形式で学びました。
(講師：岐阜県森林組合連合会 中島様)



○樹林地の荒廃
(多治見市笠原町森下地区)
昔から窯業が盛んであったこの地域は、陶土の採掘や薪炭材の伐採のために、“はげ山”が広がっていました。笠原の森周辺も昭和20年代までは、はげ山が広がっていました。

野外実験

多治見砂防国道事務所による様々な実験を体験しました。



森がないと土砂が流れ出てしまいました。森の存在は大切です。



砂防堰堤によって、土石流の被害を食い止めることができました。



雨の威力を知りました。時間降水量100mmを超えると息苦しさを感じました。

11/22 樹林整備活動

「土砂災害に強く、緑豊かな樹林づくり」を目的として、混み合って生育する樹林を明るくするため、常緑低木を間引き、日のあたる明るい場所を好む広葉樹が生育できる環境に整備しました。生徒にとって立っている木を切ることは初めての体験でしたが、普段の授業で習うことのない貴重な経験となりました。

開講式の様子



活動前の安全確認（危険予知活動）



森の中の安全確認（危険予知活動）



伐採作業（支援者の指導のもと、仲間と協力して伐採を行いました）



枝払い（玉切り作業の前準備）



後片付け（玉切り作業を体験し、切った木の片付け方を学びました）



閉講式の様子



【生徒の感想】

- ★剪定ばさみで木を切る感触が気持ちよかったです。
- ★初めての体験で楽しかったです。また、樹林整備を行う仕事もいいなと思いました。

「土岐川流域グリーンベルト整備事業」は、多治見市・土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

作成者・お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局

多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

TEL : (0572) 25-8020

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>